
ドラえもん？がんばってみようか 嘘だけどね

衛

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ドラえもん？がんばってみようか 嘘だけどね

【Nコード】

N2520G

【作者名】

衛

【あらすじ】

最近殺人鬼がこの町に就職したようだ…あゝあゝ、まためんどくさいことになりそう…僕の幸せはどこにあるのかなあ？ ドラえもんほとんど活躍なし笑 ひねくれた性格ののび太とその周りの血生臭い普通の日常を描いた小説です

殺人鬼と青い子（前書き）

文に癖があります

殺人鬼と青い子

「知ってるか？またここで人が殺されたらしいぜ」

「ああ、朝のニュースでやってたな、これでもう四人目だ…」

清々しい朝に似合うクラスの人の会話

どうやら最近話題になってるアイドル的存在の殺人鬼の事でもちきりのようだ

殺人鬼の方はここの生活がお気に召して住みついちゃったみたいだね　嘘だけど

「あ、のび太さんおはよう」

源静香さんがご丁寧に挨拶をしてくるので僕も「こんばんは」などとKY的な挨拶は返さず普通にモーニングの挨拶を返した心なしか皆元気が無く見える、今日テストとかあったっけ？

「殺人鬼が来てから皆の笑顔を見ないわね…」

そりやてえへんだ、皆の笑顔はオラの元氣玉になるっぺ！　嘘っつうか吐き気した

この町はどうやら犯罪者に目をつけられやすいみたいだね
7年前に監禁事件が起きて1年前ほどにある女の子が車に引かれて
仏に

そして2ヶ月前ほどから人間狩りを楽しむ殺人鬼がこの町に就職したってわけだコンチクショウ
平和ってなんだろうっねえ…

「外にも遊びに行けないしよ…」

「僕の家の近くなんて警官が5人はいるよ」

僕の視界の6分の1をお収めるジャイアニズム君と髪の毛が未知なる力で横にピンと伸びてるスネオ君が僕と香ちゃんのらぶらぶトーク中に

割り込んできた、邪魔だよなんて思わないわけ無い どちらも嘘ツススネオが言うとおりに、殺人鬼が夜な夜な夜這いをはじめてから警察が町の巡回を始めているっぽい

その他にもこの町のお偉いさん方も夜の町で巡回をしてるみたいっすね、命懸けのきもだめしってところかな

今まで殺された人達は全員深夜に殺されてる、新聞での情報では刺殺らしい、ぐしゃぐしゃっとな

そんな訳でこの町には警察の方々がかなりの人数で町を警備してる、なのに死人がでてるところを見ると信頼性無しだ

「皆悲痛なオーラだしまくりだよな」

「クソ…もし殺人鬼に会ったら俺がボコボコにしてやる」

じゃあしてくれよ、近くに居るんだから

君の目は節穴かな？ だったら速めに眼科行ってきなさい

ガラガラッ！

っとドアが開くと同じに僕が口で効果音をだしてみましたかどうか
でしょうか

「よーし、皆出席とるぞー」

せんせいがあらわれた ぼくは にふらむをとなえた しかし せんせいにはこうかがないみたいだ
バーチャル感覚で楽しみながら僕は席に戻って今日のおやつのことを考えながら睡眠を貪ることにした。

先生に怒鳴られせつかく巨大なゴキブリとの会話を楽しんでた夢から覚めたり廊下に立たされたりといつもどりの学校生活が終わった

いや、まだ下校がある…家に付くまでが学校だって夢のゴキブリが教えてくださった事を思い出しました まる

帰る際にはできるだけ他の人達と一緒に帰ることを校長先生にお勧めされてるけどぼかぁ一匹狼なんだい！ 嘘じゃないかも

ちなみに一匹狼って最初は群れにいたんだけど違う狼に噛み合いに負けて一人っ子になっちゃった悲惨なヒロインなんだよーっと自信満万に確信を得ないことを説明してみる

まあ僕にも友達（僕はそう認識）がいるから完全なる一人じゃないけど

帰る時はジャイアン、スネオ、しずかちゃん、僕の四人で帰ることが多い

前は帰る時には話に花が咲き楽しい一時だったんだけど、今は警察のおじさん達がいつぱいいるから話に花が咲くはずない
誰かはやくこの事件解決してくれないかなー、ほんとに

「はやく犯人捕まるといいわね…」

「ジャイアンがにゆるっと捕まえてくれるらしいからきつと大丈夫だよ」

「な、何言つてんだよ、無理にきまつてるだろ」

あれえー？前そんな発言してなかったっけ？僕の記憶のムービーフォルダには保存してあるんだけど

そんな感じで会話は沈み警察に見送られながら家に到着しましたとささて、今日のおやつはなんだろうな…人の内臓かな？

「MYマザー！今日のおやつ何〜？」

「ドラ焼きよー」

あるえ〜？

のびたは どちらやきを みつつ てにいった！

おやつを確保した僕は最近よく軋む階段を無駄に強く踏んづけて二階の自分の部屋の襖の前に到着

突然だけど僕の家構成は父、母、僕だ、父は仕事に行つてて家に居るはずも無く母も1階にいることは確認済みだ

つてことは必然的に二階にいるのは僕だけ、てか僕だけじゃなきゃいけないわけだ

なのに何故だろうか、僕の部屋から声がする…こんな死体が増加中の時代に家に尋ねる普通の人がいるとは思わないし…

あくまで普通のひとなら…ね、例えば常識を外れたヒトゴロシだったら…？

僕の手元には皿とその上に乗ってるドラ焼き三兄弟…武器としては申し分ない柔らかさだ

まあ絶対殺人鬼ではないけどね

大きく息を吸い込んで緊張をほぐし、勢いよく襖を開ける

「みつけたぞー、るぱ〜ん」

おっと、緊張がまったく無くなってしまっただ素がでちゃったよ
さて、パンドラルームに居た物は…？

勝手に僕の部屋に倒れてると表現したほうが良い転がった青いフィードに青い髪の子こがいましたとさ

僕の幸せはどこにあるのかなあ…ねえ？のび太君…

殺人鬼と青い子（後書き）

初めまして、衛マモルといたします

小説投稿初めてで、へったくそですがよろしくおねがいます

もしかしたら続かないかもワラ

僕の思考と青い子の名前（前書き）

文に癖があるッス

僕の思考と青い子の名前

なんてこった…予想外だった

まさか全体青い子が僕の部屋に倒れてるなんて

フードからすこし顔がでてるけど…あ、目合っちゃった

ジー

僕の部屋に勝手に倒れこんでる人と目合っちゃったよ

人間初めての事には緊張と驚きがあるもので僕もちろん緊張してるし驚いてる

緊張は初めてのお使い並に、驚きは初めてのお使いの時に後から親がついてきてた事が発覚した時ぐらいに驚いてる

まあ…

この時点で僕は殺虫剤でジワジワ殺されるゴキブリの心境になりこれから苦難が待っていると悟った

のびた君…僕はどれだけ嫌な目に遭わなければならぬのでしょうか

閑話休題

さてと…この子どうしよ…

なんか動けないみたいだし敵意がないみたいし僕のドラ焼き見てるし涎垂らしてるし汚いしシミになるし

さっきから僕のドラ焼きを見てるところから、空腹に浸って可愛そうな子供を装って遊んでいる訳ですな、変わった子だね

さすがに口には出さないよ、さて…無難な言葉で距離を縮めてお互いを分かり合おうか 不本意どえーす

「君、もしかしてお腹すいてる？…ドラ焼き食べる？」

コクコクコク！

三回も頷かれてしまった…ってことはドラ焼き三つよこせてことか欲張りだな不審者め

だが僕は親に愛を与えられて育ち時に優しく、時に厳しく育てられたからちゃんと利口で心優しい青年に育ってるのだ、と僕は幼い子が大好きなおじさんの誘いに

乗らなかつた子供が親に報告するように自画自賛するが果たして本当かどうかは謎だ

「ママに野良に食べ物をおんじや駄目よって言われてるんだ、ごめんね」

君にはドラ焼きを食べるっていう選択肢がないのだよ、十割方僕が悪いく

我ながら良い判断だと思っ前に目の前の野良が表情を少し崩した

あ、すこし泣きそう

僕のまだすこしばかり残ってる良心が傷つく

嘘だけど

泣いたら僕が泣かせたみたいになっちゃってしまっし、まああながち間違ってるんじゃないけど

僕には限られた選択肢しか無い訳で、もう僕はヒフティーヒフティ

ー使ったし選択肢が二つしか無いわけで困っちゃっし訳ですよ

あれ？ヒフティーヒフティー使ったら逆に損じゃね？

僕は

パク

A の目の前でおいしく頂く にしました

パクパクガリガリムシヤムシヤ

一個減ることにその子は顔を崩ししていく

2個目が食べ終わった頃にはもう涙が目に溜まりまくっていた

ああ、君の目って小さいダムだったんだね、ご苦労様

僕の口にドラ焼きが入るほど君の目のダムが溜まるなんて高性能だなあ、と人事にしてみました

最後の一個になっちゃったドラ焼きだけど…

「一個だけだけど…食べる？」

コク！！！！

勢いよく頷かれてしまった

でもさ、最後の一個ってなんか特別な感じしない？

食べ物でもなんでも最後の物って僕は特別な物だと思うんだ
それを人に譲るなんてとんでもない！

っと己の中で自己解決して

「嫌だ！これはぼくんだい！」

理不尽だと思う人がいるかもしれないけど勝手に僕の部屋に倒れこ
んでる奴の方がイってるだろう

そんでもって最後の一個を口に含みゆっくり噛んで味を楽しむ
倒れてる子の近くに座って目の前でね

モグモグ

普通にうまいね

お腹が減って餓死寸前の涙ポロポロの子の近くで食べるドラ焼きは
美味ツスねえ 嘘に決まってるだろ

ギユウルルルル

この子の顔に似合わないあどけないお腹の虫の訴えに僕は耳を傾け
ず本題を向ける

「きふいふあふあれ？」

おっと、まだ口にドラ焼きが入ってた事忘れてたよ、別に嫌がらせ
じゃないよ、念の為言っとくけど

口の中のドラ焼きを飲み干してもう1回質問

「君は誰？」

その子は泣きながら僕に名乗って来てました

「えぐ…うう…ボク…ドラえもん…」

ああ、この子はトチ狂ってるな

そんな事を思いながらの運命的な出会いがありました
つか僕って嫌な運命しか背負ってなくね？

まあ…僕は前から狂ってる訳だし…狂いながらこの先真っ暗の未来
に進んで行こうか

嘘だといいなあ…

僕の思考と青い子の名前（後書き）

どうも、衛です

文がすごく雑で見ずらいと思います…

自分で書いてて思ったのが

一話の文が少なすぎる

文が雑で見ずらい

などなど他にも多数あります

よければご指摘願いたいです

以下少しネタばれ

のび太は過去に酷い事に巻きこまれています

以上です

まあ後々明かしていきます

では、次のお話でまたお会いしましょう（書けたらツスけど…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2520g/>

ドラえもん？がんばってみようか 嘘だけどね

2010年11月3日17時30分発行